HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	「勉強会の効果についてのアンケート」回答結果
Author(s)	川村, 路代; 河野, 由香里; 山形, 知実 他
Description	”北海道の図書館職員を中心とした有志による自主的な勉強会(仮)”成果物
Relation	第58回北海道図書館大会. 2016年9月8日～9日. 北星学園大学, 札幌市.
Issue Date	2016-09
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/62828
Type	conference presentation
File Information	oster_0915.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

「勉強会の効果についてのアンケート」回答結果

北海道の図書館職員を中心とした有志による自主的な勉強会(仮) | kamaitachi1203@googlegroups.com

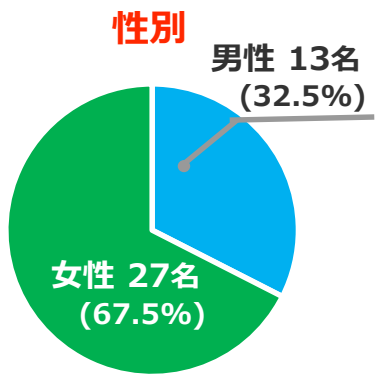
勉強会の現状とアンケート調査の目的について

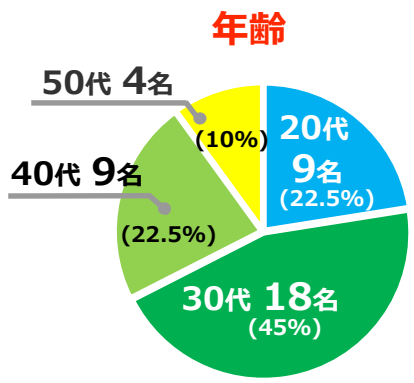
勉強会はほぼ月1回開催され、道内外から十数名の参加者と講師を招聘し、図書館員の研鑽に役立つプログラムを企画している。このたび20回目を迎えるにあたり、参加者の満足度、勉強会によって行動の変化があったかどうかを把握するとともに、今後の運営に向けての課題点を明らかにすることを目的に、アンケート調査を実施した。

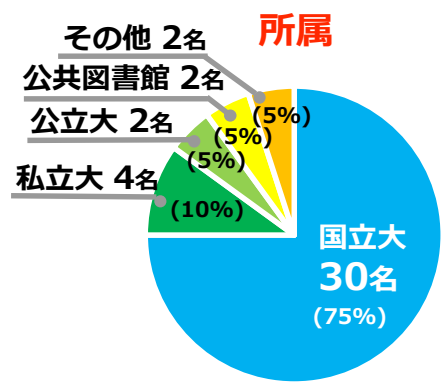
調査対象とアンケート回収方法および回答数について

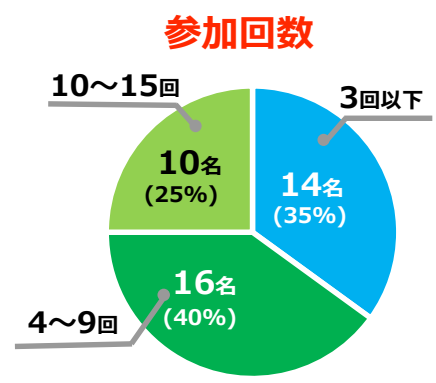
これまでに勉強会に聴講者として参加した主に図書館職員、および講師として招聘した道内外の方々96名を対象に、Googleアンケートのフォームから回答する方式で、2016年8月、約2週間アンケート回答を受付け、最終的に40件の回答を得た。

アンケート回答者について

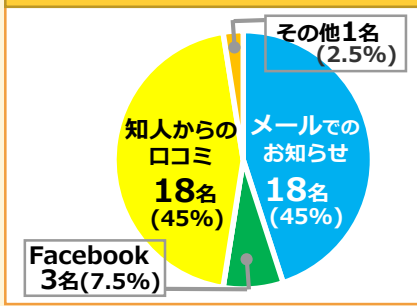






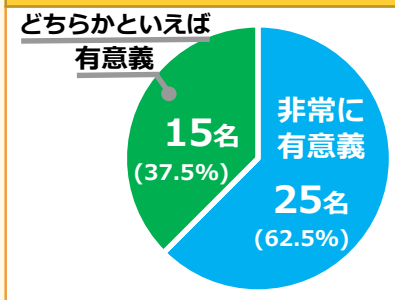


勉強会をどのように知りましたか？



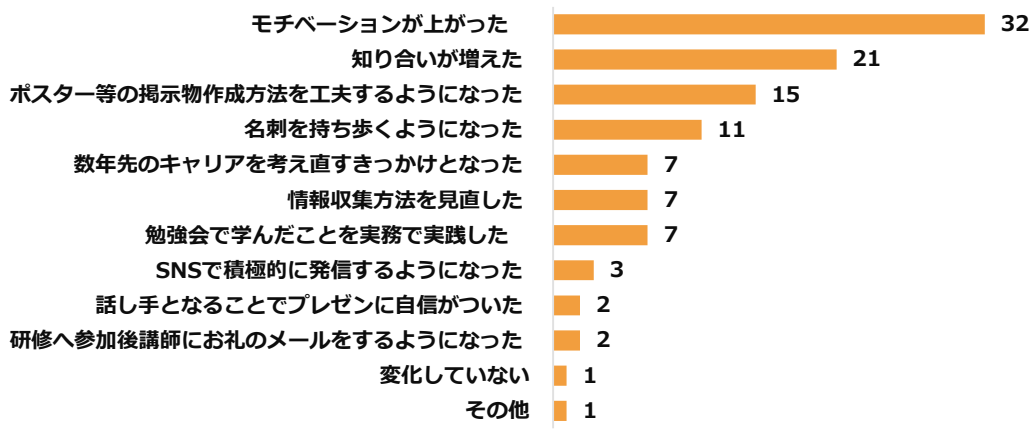
左図から、参加者の大半が勉強会世話人との何らかのつながりを通じてメールを受け取るか、もしくは知人からの口伝てにより勉強会の存在を知ったということがわかる。旧知の間のみではなく、新たな参加者を増やすために、知人の伝手を頼むのみでなくfacebook等の広報手段を有効に使用する方法の模索が今後の課題となる。

勉強会の効果は？



選択肢は「非常に有意義」から「まったく有意義ではない」まで5択あったが、回答は有意義であったことを示す左図の2種類のみであった。従って参加者は何らかの成果を参加によって得ているものと考えられ、満足度の高さがうかがわれる。

参加によって行動や意識の変化はありましたか？(複数回答可)



回答結果からわかることの1点目は、**回答者40名中32名(80%)が勉強会によって業務へのモチベーションが上がったことを実感している**点である。図書館職員として必要な問題提起を多様なテーマで講演し、情報交換を行うことが業務の中での問題解決に繋がり、次へのキャリアアップへの導入となっていることが予想される。

2点目に顕著な傾向としては、**知人の増加、つまりは同職相互のつながりの強化**である。実際的に知人が増えることのみならず、意識の上で仲間同士の関わりを得ることで、勉強会という場が安心感を生み出す相互交流の場としても役立っていることが示されている。

3点目には、情報収集方法の見直し、掲示物作成方法の工夫など、**実際の業務において勉強会で得たことを生かしている例も多い**ことも挙げられる。

【発表者限定】発表によって得たものは？

- 他人の反応が直接見えた
- 堂々と発表できる図書館へ、さらに頑張ろうと思えた。
- 話したことがヒントになった、行動を変えるきっかけになった、と言って頂いた
- テーマを深く調べられたこと
- 参加者の方との出会いがあったこと
- プレゼン慣れすることができた
- 事後アンケートでフィードバックをもらえることがよかった
- プレゼン後に感想・ご指摘を頂くことで、反省し次に活かすことができる

まとめと展望

参加者の勉強会に対する感想を書いていただいた自由記述からうかがわれることは**「モチベーションがアップした」「刺激をもらえる」「講演から今まで気づかなかった視点を学べる」**など、研鑽の場としての満足度は極めて高いことである。「気軽に他大学の人の話を聞ける貴重な機会」という声からは、図書館相互のネットワークを実現している場としての勉強会の意義が実感できるし、また、「バラエティに富む企画」「遠隔地からウェブ視聴参加できるのが嬉しい」という感想もあり、常に参加者のために工夫をこらす運営側の努力が大いに評価されていることが示されている。「資料・アンケート結果の公開」を評価する声も多く、聴講のみに留まらず**フィードバックをも有意義に行っている参加者および発表者の存在**が印象づけられた。今後の課題としては、参加者所属の偏りがあり、それと関連して、勉強会についての周知をより外部へ広めるための方法の工夫が提起されるものである。